

HPVワクチンについて

子宮頸がんとは？

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年約1.1万人の女性がかかる病気で、毎年2,900人の女性が亡くなっています。すべての年代の女性がかかる可能性があります。近年は20～30代の若い女性で増加しています。

子宮頸がんの原因は？

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。女性の多くがHPVに一生に一度は感染するといわれています。感染してもほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人ではがんになってしまうことがあります。

HPV ワクチンとは？

子宮頸がん予防のためにHPV感染症を防ぐワクチン(HPV ワクチン)が開発されました。HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。日本国内で接種可能なHPV ワクチンは、2価ワクチン(サーバリックス)、4価ワクチン(ガーダシル)、9価ワクチン(シルガード9)の3種類があります。

HPV ワクチンの現状は？

HPV ワクチンは2013年4月定期接種となりましたが、HPV ワクチン接種後の健康被害に関するマスメディアの報道以降、HPV ワクチンの安全性について見直す動きとともに、2013年6月以降は、接種の積極的勧奨を中止する事態となり、日本の接種率は1%に満たない状況が続いてきました。その後、多くの安全性に関するデータが国内外から発表されています。

厚生労働省の研究班の全国疫学調査で、HPV ワクチン接種後に発生した「多様な症状」がHPV ワクチンを接種していない者においても認められることが示されました。名古屋市で行われた調査では、HPV ワクチン接種後に発生した「多様な症状」の頻度がHPV ワクチン接種者と非接種者において有意な差が認められないことが報告されました。

最近の話題

厚生労働省は、2022年4月から12歳～16歳の女子に個別に通知して、HPV ワクチン接種を勧めることを再開しました。また、積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方(誕生日が1997年4月2日～2006年4月1日の女性で過去にHPV ワクチンの接種を合計3回受けていない方)に対して、時限的(2022年4月～2025年3月までの3年間に従来定期接種の対象年齢を超えて接種を行うこと(キャッチアップ接種)になりました。

2023年4月からは9価HPV ワクチン(シルガード9)が定期接種化されています。

接種対象の方と保護者の方はHPV ワクチンについて、十分に理解した上で接種を検討、判断しましょう。

【すだこどもクリニック 院長 須田正勇】



大村護国神社

【医心伝心】今、Chat GPT が世間をにぎわせておりますが「AI」の進化がすごいです。AIとは人工知能を指す言葉であり、近年急速に発展しています。AIは、今後も技術の進化に伴い、私たちの生活や社会に大きな影響を与えていくことが予想されます。そのため、AIについての知識を深め、正しい理解を持つことが重要です。しかしAIにはまだできないこともあるため上手に活用していくことも大切です。
追記：以上の記事はAIが作成しました

看護師への復職を考えている方へ
”あなたの笑顔が必要です！”

潜在看護師の復職支援研修を行っています。
大村市医師会にご相談ください。

